



『よい年はつくるもの』

3学期の始めの挨拶です。元気に挨拶しましょう

『おはようございます。』（おはようございます。）

今日は新年初めての挨拶です。「あけましておめでとうございます」の挨拶もしましょう。

「あけましておめでとうございます。」（「あけましておめでとうございまあす。」）

「ことしもよろしくおねがいします。」（「今年もよろしくお願ひします。」）

さて、今日は皆さんを迎えていると、高学年の人も、低学年の人も、立ちどまって、改まった様子で『明けましておめでとうございます。3学期もよろしくお願ひします。』と笑顔で挨拶してくれます。「こちらこそよろしくお願ひいたします」という気持ちになります。

「今年は4年生になります。がんばります。」「2年生になってもよろしくお願ひします。」と、うれしそうに言ってくれたり、6年生が「先生、今年はまだ卒業です。残りの3学期よろしくお願ひします。」と言ってくれたりして、みんな新しい「一年」をしっかりと頑張ろうと思っているんだなあと思いました。

そして、今日は中学生も、笑顔で『おめでとうございまあす。』『今年もよろしくお願ひします。』と、口々に挨拶してくれました。

そんななか、桃五の卒業生で中瀬中の3年生の女の子に、「今年はまだ卒業、春には高校生だね。いい年になるといいね…」と声をかけると、『2月には高校受験で試験があるので、自分で努力して良い結果を出して今年をいい年にします。』と、元気に言ってくれました。そうですね。いい年になるのを待っているのではなくて、自分で、「いい年にする」んですね。思わず、「がんばれ。」と、中学生と握手してしまいました。

今朝、皆さんの教室を回ってみると、どの教室も皆さん迎える準備がしてあって、黒板にもいろいろ3学期を迎える言葉も書いてありました。その言葉の中で、「よい1年を作りましょう。」という言葉がありました。「よい1年になるといいですね。」ではないのです。『作りましょう。』なのです。そう、良い1年にするのもしないのも皆さん次第。

そこで、今日は『良い年は創るもの』という話をします。

私の教え子で、以前海外に何年か出張して仕事をし、去年の春日本に戻ってきた男の子（いやもう子ではありません立派な大人ですが）がいます。この人は暮れの12月になると、挨拶に訪ねて来てくれます。

このお兄さんは以前、「今、海外で仕事をしています。がんばっていますが、この後も3年くらい海外で今の仕事をそのまま引き受けてくれないかといわれて、落ち込んでいます。日本で仕事の方がいいので今の仕事をやめてしまおうかとも思っています。」というお便りをくれたので心配していると、お正月にそのお兄さんが訪ねてきてくれて、「いやだいやだといっているもやらなければいけないことはある。どうせどんな仕事をしていても、大変なのは変わらない。だから逃げるのはやめてがんばってみることにしました。いやだと言っていたことを逆に良い方に変えていくようにがんばります。良い年にするのは自分ですから。」と言っていました。

去年の暮れにもまた訪ねて来てくれたので、その後どうしているか聞くと、

『帰国してしばらくは落ち着いた仕事できる部署でしたが、今いる部署は責任も大きいし、油断してられない仕事なのでゆっくり寝ている暇もないくらいです。でも、どの部署に行っても、仕事は自分次第、一生懸命努力すれば結果はついてくる。すぐにその成果は出なくても必ず努力したことは報えられる。だから、やっぱり良い年にするのもしないのも自分次第です。だから、来年も自分の努力でよい一年にします。』

(.....、すごいな、えらいな.....)

そうです。よい年は「自分の力でつくる」のです。待っていてもよい年が向こうからやってくるわけではありません。自分でよいことを呼ぶのです。自分でよい年にするのです。

皆さんは今年、どの人もみんなあと少し、あと3カ月、日数で言うと五十何日か、で次の学年に進みます。1年生は2年生に、2年生は3年生に、3年生は4年生に、4年生は5年生に、5年生は6年生、そして6年生は、それこそあと3カ月ちょっとすると、もうここにはいません。中学生です。そのための始まりの月、準備の今日です。だから、自分の力で良い年を創る、そのための準備を、今日から3学期の間にしなければなりません。

先ほどのお兄さんのように、自分のやらなければいけないことから逃げてしまわずに、今年を自分の力で「よい1年」を創ってください。桃五の皆さんの努力に、きっと良い成果はついてきます。良い一年を、創りましょう。

お話、終わります。

